

(様式2)

3 7 0 0 5

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和元年 3月19日
札幌市立 発寒中学校

1 本年度の重点目標

[スローガン] スマイル発中

2 本年度の経営方針

目指す学校像《ミッション》

- 生徒の将来の自立を目指す学校
- 生徒の学ぶ意欲を広報させ、学ぶ姿勢を育てる学校
- 生徒の健やかな体を育成する学校
- 教職員が才能を発揮し、夢や希望を抱き、実現できる学校
- 社会に開かれ、地域に愛される学校

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	重点目標は、学校や生徒の実態からみて適切である	A	スマイル発中というスローガンは、生徒の中にも浸透している。今後は、自校への愛着と誇りを育ていけるような取組・働きかけを推進する。	A	A
	生徒の協働作業のための具体的な手立てを工夫している	A	卒業期の“合唱づくり”の取組は、曲の選定をし、良い伝統として継承されている。また、今年度も、98きまりの精神「協力・尊重・自律」を意識させ、学校行事を推進し、仲間と共に歩む気持ちを育む。	A	A
	教師間の連動を意識した業務推進を図ることができた	B	今年度の反省を生かしつつ、校務分掌や業務データの保管・情報の共有化の見直しを図る。その見直しをもとに、働き方の改革の推進を検討する。	B	A
学校関係者評価委員による意見	昨年度に引き続き、先生方で力を合わせて、充実した教育活動を行って来ています。今後とも、継続していけるよう期待します。				
学習指導	わかりやすい授業づくりへの取組～授業の焦点化・視覚化・共有化～	A	生徒用の学校評価アンケートでも、肯定的回答が前後期とも5～6%の上昇（平均86.6%）は見られ、教師用タブレットの活用も進んでいる。さらに次年度は、校内研修でも「わかる」「できる」「楽しい」を実感する授業づくりに向け、研修を推進する。	A	A
	読書活動の推進と課題解決に必要な力を育てる情報教育の充実	B	朝読書の習慣は、生徒用学校評価案アンケートで前後期とも肯定的回答が70%と定着しつつある。今年度は、総合的な学習の時間を中心として、課題の設定の仕方やこれまでの取組の見直しなど、次年度の改善に繋がる振り返りができた。	B	B
	生徒ひとり一人の学力向上のための少人数指導の推進	A	英語や数学での少人数学習の取組が、生徒用学校評価アンケートの各教科で適切なアドバイスがもらえるかという質問に、前後期平均80%程度の肯定的な回答を示していることに繋がっていると考えられる。今後とも継続し、さらなる効果を期待したい。	A	A
	将来の進路や職業についての情報提供と適切な学習の推進	B	総合的な学習の時間における職場体験を中心としたキャリア教育に加え、全学年対象で進路説明会も開催している。今後は、3年間を見通した進路指導を計画を検討し、より丁寧な情報提供を心掛ける。	B	A
学校関係者評価委員による意見	コロナウィルス感染症による3学期の学習内容の遅れは、新年度で丁寧に取って生徒たちが困らないようにしてあげてほしい。				

(様式2)

生徒指導	配慮を要する生徒や日常生活の“困り”を抱える生徒への取組	B	生徒用学校評価アンケートで“～困ったことがあったときは、いつでも先生方に相談できる～”という問いに前後期平均で 61.65%が肯定的回答を示している。今後とも、教育相談の時間を確保し、学びの支援委員会を中心に、担任・学年・スクールカウンセラー・相談支援パートナーとの連携を密にし、個に応じた適切な対応を、これまでと同様に推進していく。	B	A
	明るく交わす挨拶などの日々の温かい人間的なふれあいづくり	A	朝の登校指導の際に、担任は教室で、副担任は玄関や廊下で、生徒を迎え入れ、あいさつを交わすように取り組んでいる。学校評価アンケートでも生徒保護者とともに、発寒中のあいさつに関して前後期平均90%以上が肯定的な回答を示しているため、次年度も“スマイル発中”のスローガンのもと、日常の挨拶を大切にしていく。	A	A
	いじめ防止の共通理解と組織的対応	A	いじめ対策委員会を中心に、アンケートの実施やいじめについて考える道德など、全校体制のもと組織的な対応に努めている。今後とも、日常的な取り組みの大切さを職員で共通理解し、いじめ防止の推進に努める。	A	A
	豊かな心を育てるための道德教育の充実	A	全校体制で、特別の教科道德の実施を行った。学級担任だけでなく、他の学級の担任や副担任がローテーションで授業を行い、道德の時間を楽しみにする生徒も増えた。教師も多くの経験を積むことができたので、今後とも、道德推進教諭を中心に、更に教員の研修を深める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	学校に足が向かない生徒にも、これまで以上に丁寧な対応を期待しています。				
家庭・地域との連携	地域や家庭へのわかりやすい教育活動の情報発信	A	年 14 回の学校だよりを配布して、学校の様子を伝えている。また、学校公開の機会を増やし、学校ホームページの充実に努めてきた。保護者向け学校評価アンケートでは、学校の方針をわかりやすく伝えているという質問に昨年同様 90%近い肯定的回答をいただいている。今後も、学校活動の情報発信に力を入れていく。	A	A
	PTA 活動の充実と地域との連携	A	学校・学年行事への保護者参観も呼びかけており、足を運んで下さる方が増えている。次年度の PTA 役員も無事決まり、これまでと同様に充実した活動が期待できる。今年度は、校区内の町内会と連携した清掃活動などにも取り組み、地域と連携した教育活動を推進することができた。	A	A
	母体小学校との連携を密にした教育の連続性と発展	A	今年度は中学校区をの小学校と 4 校協議会を重ね、共通の教育目標を掲げ、小中一貫した教育の第一歩を踏み出すことができた。その一環として例年行っている小学校への出前授業や中学授業見学などは好評だった。また、小学校の先生方に中学校の授業を見学しに来てもらうなど、教員同士の交流も行うことができた。	A	A
	学校評価の活用	B	保護者アンケートの回答率は約 77%で、昨年度よりも若干低下してしまった。回収の方法の工夫や告知を充分に行っていく。今後とも、生徒・保護者・教職員へのアンケートを適切に実施し、学校改善に向け、活かすよう努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	地域に開かれた学校を目指して、これからも頑張ってもらいたいと思います。				